令和２年９月

小３６　練馬区立石神井西小学校

令和２年度　学力向上を図るための全体計画

【都の教育目標】
・互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
・社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
・自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間

【区の教育分野目標】
夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備えた子どもたちの育成

取組の視点１　教育の質の向上
取組の視点２　家庭や地域と連携した教育の推進
取組の視点３　支援が必要な子どもたちへの取組の充実

《学校の教育目標》

本校の教育は、日本国憲法・教育基本法・児童の権利に関する条約の理念と人権尊重の精神を基調に、これからの社会に主体的に対応し、国際的視野に立ってすすんで協調することのできる、心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成を目指す。このことを具現化するために、次の目標を設定する。

○　たのしく学ぶ子
○　はつらつと活動する子
○　ともに歩む子

【学校や地域の実態】
・落ち着いた学校生活
・学校と協力する地域

【保護者の願い】
・学力の向上
・子供が楽しく安心して通える学校

【地域の願い】
・学校への期待や関心が高い。
・地域に開かれた学校の推進

【教師の願い】
・生命尊重　人権尊重
・基礎基本の学力の充実
・個性、能力の伸長

〔学校経営計画（学力向上にかかわる要点）〕

中期経営目標　○基礎・基本を大切にし、児童が主体的に学ぶ授業を行い、思考力・判断力・表現力を身に付けた児童を育成する。

短期経営目標
・①静かに②話し手を見て③うなずきながら、話を聞くことができるようにする。
・基礎的な知識・技能をすべての児童に身に付けさせるようにする。
・毎時間のめあてについて児童自身がまとめを書けるようにする。

各教科の指導の重点
・指導方法の改善、工夫により基礎的、基本的内容を確実に身に付けさせる。
・言語活動を通して言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力を高める。

本校における「確かな学力」

確かな学力とは、知識及び技能、思考力･判断力・表現力、学びに向かう力の総体であると考える。
知識及び技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力を育むとともに、学びに向かう力を養うことが根幹となる。

確　か　な　学　力
学びに向かう力 思考力，判断力，表現力
⇧
基礎的・基本的な知識及び技能

道徳教育の指導の重点
・道徳の時間の指導を中心として学校教育活動全体で道徳教育に取り組み、互いの思いや主張を尊重していくことができるようにする。
・命を大切にする教育を重点にする。

総合的な学習の時間の重点
・横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、主体的・創造的・協同的に取り組む態度を育てる。

特別活動の指導の重点
・集団の一員としての役割を自覚してよりよい人間関係を築くとともに、社会性の基礎を育む。

キャリア教育の重点
・夢や希望をもち、それに向かって努力をし続けられる意欲的な態度を育てる。
・中学校との連携を図り目標をもって生きる態度を育てる。
・社会の中、日常生活において役立つ力を育てる。

生活指導の重点
・基本的生活習慣の定着を図るとともに、児童が自ら気付き、考え、判断し、行動し、支え合い、進んで生活を充実、向上させる態度と実践力を育てる。

本　校　の　改　善　策

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫
・問題解決、体験活動を取り入れた学習の重視 ・課題解決、習熟度別学習を取り入れたチーム・ティーチング、少人数指導の推進 ・自力解決学習と学習感想の重視 ・各教科における言語活動の重視 ・東京ミニマムの活用 ・東京ベーシック・ドリルの活用 ・ICT 機器の活用	・外部人材等の積極的活用 ・朝読書、教員による読み聞かせ、図書館員によるブックトーク等の読書活動の実践 ・週に一度、朝 15 分間の基礎学習の実践 ・学期１回のいじめなくそうアンケートの実施 ・児童・保護者アンケート、学校関係者評価を生かした教育課程の編入	・年７回の授業研究を通しての授業力の向上 ・キャリアプラン等に基づく自主的・自発的研修の活性化 ・教材研究の重視 ・長期休業中の職員研修の実施 ・校内 OJT の実施 ・教員同士の授業公開の実施 ・教職員全体の服務研修
評価活動の工夫	**家庭や地域社会との連携の工夫**	**小中一貫教育の取組**
・一人一人のよさを見付け、よさを伸ばすことで他の力を伸ばす評価計画、評価規準、評価基準の作成等による指導と評価の一体化 ・自己評価、相互評価の活用 ・積極的な教職員同士の情報交換	・基本的な生活習慣の確立（朝食・睡眠等） ・「早寝・早起き・朝ごはん」の運動の推進 ・家庭学習や宿題等の工夫 ・地域の教育力の活用（地域未来塾）	・４つの研究部会での小中一貫教育の研究実践 ・課題改善カリキュラムの作成 ・校区別協議会での協議内容を授業改善に活用 ・校内での挨拶運動

⇧

授業改善策の検証方法

○東京都や国による学力調査の結果と授業改善推進プランとのＰＤＣＡサイクルによる検証
○小中一貫教育グループによる課題改善カリキュラムと校区別協議会でのＰＤＣＡサイクルによる検証
○東京ベーシック・ドリルによる検証
○学校評価による検証